

(町並み版)

※ (町並み版) とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

1 本願寺（西本願寺）からの眺望景観

【周辺の特徴】

- ・西本願寺は京都駅に近い、商業系用途の市街地に囲まれている。周囲には本願寺に関わりの深い建築物が多いが、とりわけ堀川を挟んだ東側は古くから仏具や数珠・法衣などを扱う商店などが見られる。
- ・周囲には龍谷大学、龍谷ミュージアム、伝道院など本願寺に関係する建築物が多く浄土真宗の歴史と文化を感じさせる。



1-1 阿弥陀堂北東角から北への眺望
：境内建築物の間から近傍のビルが見える。



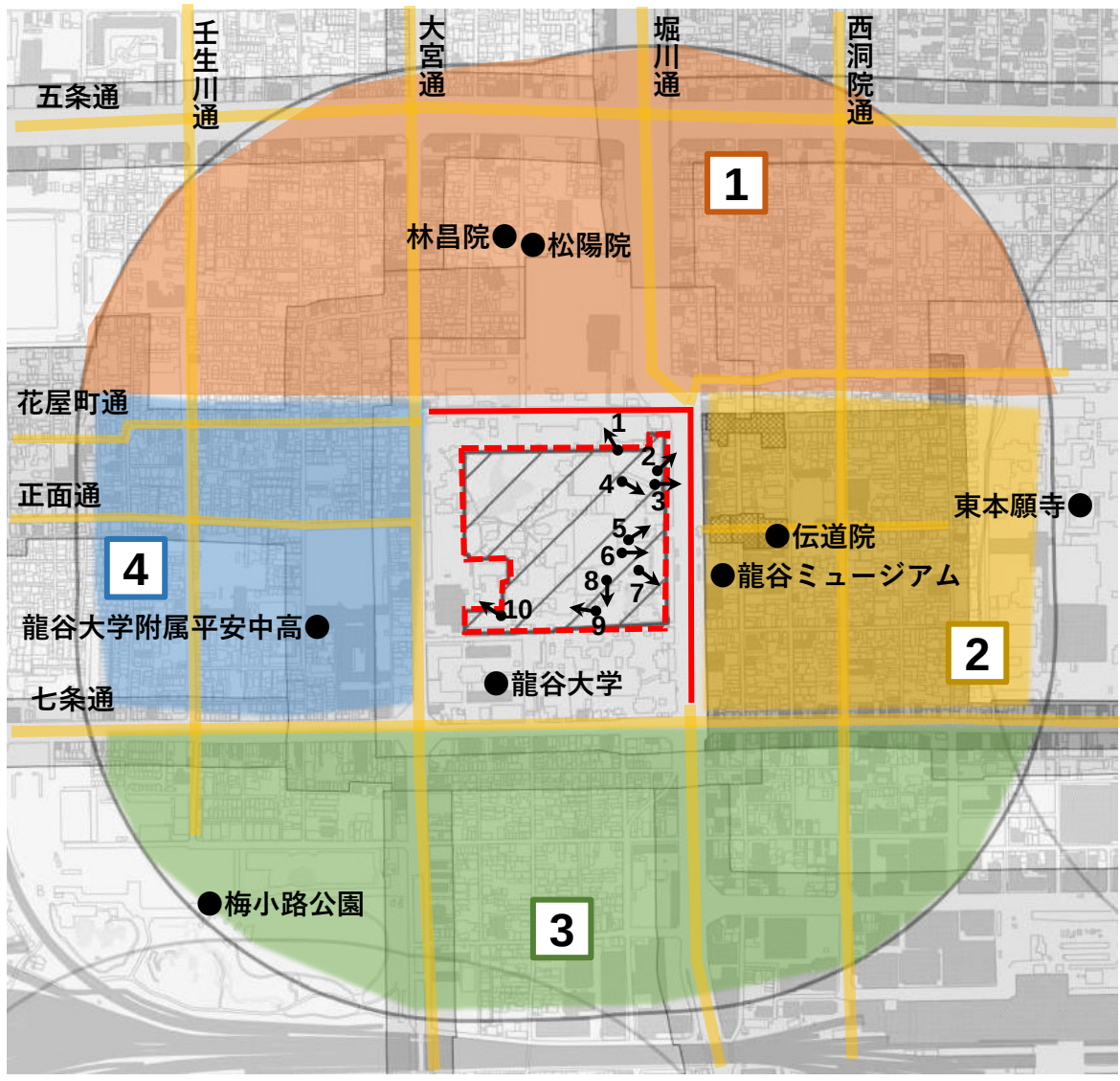
1-2 阿弥陀堂東側から北東への眺望
：堀川通沿いのビル上部が見える。



1-3 阿弥陀堂門から東への眺望
：門を通して堀川通沿いの中高層マンションが見える。



1-4 阿弥陀堂東側から南東への眺望
：堀川通沿いのビルの上層部が見える。
遠くに京都タワーが見える。



 視点場（境内）
 視点場（参道等）
 主な通り



1-5 御影堂東側から北東への眺望
：堀川通沿いのビルの上層部が見える。



1-6 阿弥陀堂東側から東への眺望
：堀川通沿いの龍谷ミュージアムの屋根及び隣接するビルの上層部が見える。



1-7 龍虎殿東側から南東への眺望
：堀川通沿いのビルの一部が見える。



1-8 龍虎殿前から南への眺望
：七条通沿いのビルの一部が見える。



1-9 唐門東側から西への眺望
：隣接する龍谷大学が見える。



1-10 大玄関門北側から北西への眺望
：大宮通沿いのビルの一部が見える。

■ 2 本願寺（西本願寺）周辺の景観

【周辺の特徴】

- ・堀川通や五条通等の幹線道路沿いには中高層の建築物が建っているが、一筋入ると低層の住宅や商店等が並ぶ。
- ・周辺には町家や路地が多く残っており、落ち着いた景観を形成している。
- ・東西の本願寺を中心に、寺内町として発展した地域で、その名残として、現在も仏具や法衣を扱う商店や、参拝者の宿坊となる旅館などが多く立ち並ぶ。



2-1 堀川通正面から北への眺望
：総門の周囲に旅館や商店が並ぶ。



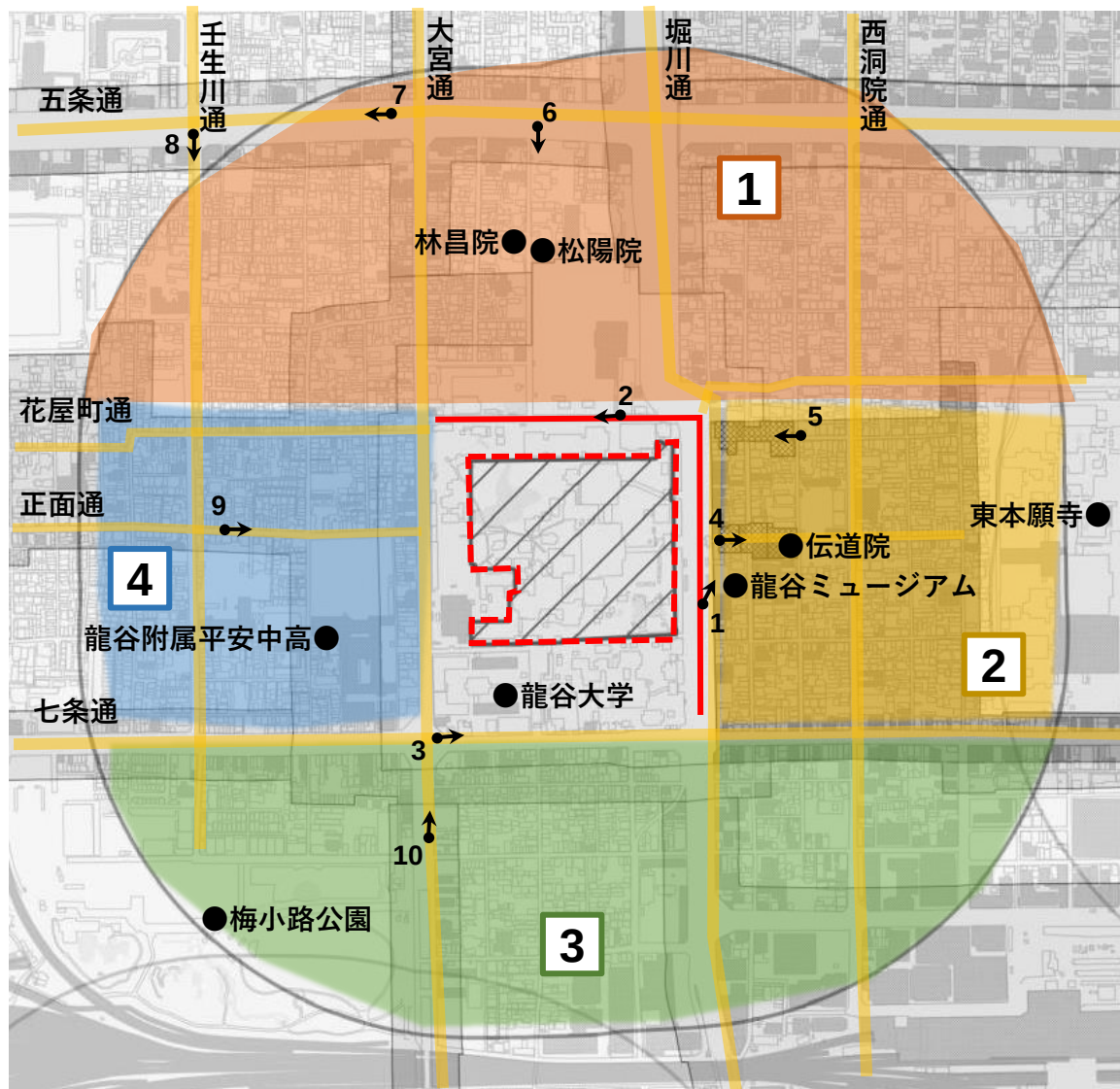
2-2 花屋町通から西への眺望
：塀の通り向かいには中低層建築物が並ぶ。



2-3 七条通大宮から東への眺望
：銀行やマンション、商業ビルが並ぶ。



2-4 堀川通正面から東への眺望
：町家が連続する町並みに近代建築も見える。



--- 視点場（境内） — 視点場（参道等） — 主な通り



2-5 花屋町通東中筋から西への眺望
：法衣店、仏具店、ゲストハウス等が並ぶ。



2-6 五条通猪熊から南への眺望
：寺院が立ち並ぶ。



2-7 五条通下松屋町から西への眺望
：中高層のマンションや商業ビルが並ぶ。



2-8 五条通壬生川から南への眺望
：低層の住宅、商店等が並ぶ。



2-9 壬生川通正面から東への眺望
：低層の住宅や商店が並ぶ。

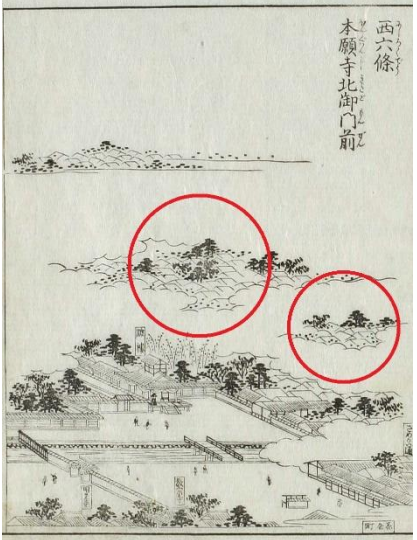


2-10 大宮通から北への眺望
：中高層のマンションや商業ビルが並ぶ。

■ 3 本願寺（西本願寺）周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

1 西本願寺北側			
ア エリアの歴史等	・本地区の江戸期の土地属性は、山城国葛野郡中堂寺村村域、本圀寺寺領、鍛冶屋をはじめ諸職の商家街、東本願寺寺領に分けられる。 ・本圀寺は五条通までの寺領を有していたが、昭和44年(1969)に現山科区へ移転した。旧寺領の一部は本願寺聞法会館や駐車場の敷地となり、京都東急ホテルは、昭和57年(1982)に開業している。 ・西洞院通は平安京の西洞院大路に該当し、京都市電の軌道が敷設されるまでは西洞院川が流れ、染色業や製紙業など様々な業種が存在していた。 ・西本願寺・東本願寺と共に発展し両寺の寺内町としての一面を持つ地域である。		
	・西本願寺の北側には聞法会館、元淳風小学校、京都東急ホテル等がある。現在も本圀寺の旧塔頭が猪熊通沿いを中心に残っている。 ・五条通は、南北両側に中高層のマンション、ホテル、オフィスビル等が並んでいる。幅員が広く視界が開けているため、東山を望むことができる。 ・油小路通周辺などの幹線道路の街区内側は、低層建築物が連なる町並みで、町家も残っており落ち着いた景観を形成している。 ・猪熊通、壬生川通周辺は低層の民家が密集しており、古い町家や路地も多く残っている。 ・大宮通沿いは、中層のマンションや商業ビル等が並んでいる。 文化財等：林英社屋		
イ 町並みの特徴			
ウ 景観形成方針	歴史遺産型美観地区	旧市街地型美観地区	沿道型美観形成地区
	両本願寺の寺内町に宗教関連の地場産業の店舗及び参拝者の宿坊が軒を連ねる景観特性の継承を基本方針とする。	職住共存の京町家が連坦する町並み景観を形成している。幹線道路に近接しているため、業務及び共同住宅等の中高層建築物への建て替えが著しい。	歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することがないよう、沿道の町並みの連続性と調和に配慮し、良好な景観を創出する。
エ 建築計画等に求める配慮事項	本願寺に面する建築物は、寺内町の風情を保全するよう誘導する。その他の敷地では、寺内町の雰囲気を受け継承する落ち着いた景観の形成を図る。		
	職住共存地域と幹線道路との景観上の連続性に配慮し町並み景観を特徴づけている京町家や商家と調和する職住共存の市街地景観の形成を基本方針とする。		

参考写真等



3-1 都名所図会「本願寺」安永9年(1780)



3-2 五条通猪熊から南への眺望



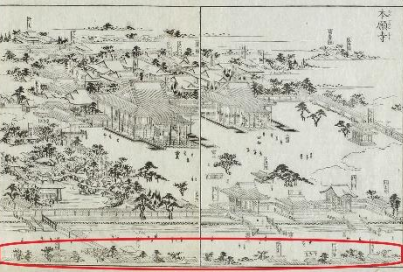
3-3 五条通から東山への眺望



3-4 揚梅通の町並み

2 西本願寺東側	
ア エリアの歴史等	・西本願寺の門前町・寺内町であり、西本願寺とともに発展していった地域である。東本願寺と同じく竹屋町、鍛冶屋町、珠数屋町、仏具屋町など生業がそのまま町名の由来となっている町が数多い。(図3-5)。 ・信徒用の「客屋十二町」という旅館街にもなっていた。
イ 町並みの特徴	・西本願寺東側は、寺内町の中でも固有の景観を色濃く残している。 ・法衣店、仏具店、数珠店等の宗教関連用品を扱う商店や、しもた屋等の町家が多く残る。また、参拝者の宿坊の役割にもなる和風旅館が多く立地している。 ・西本願寺の正面に龍谷ミュージアムは位置し、周辺は中層の商業ビルや旅館が多く並んでいる。 ・正面通には本願寺伝道院がある。 ・油小路通、東中筋通沿いは低層の住宅や民家、商店が混在しているが、町家も残っており落ち着いた景観が形成されている。 文化財等：旧真宗信徒生命保険株式会社本館(本願寺伝道院)、旧鴻池銀行七条支店、燕庵庭園(名勝)
ウ 景観形成方針	本願寺・東寺界わい景観整備地区
	東西本願寺の「寺内町」として400年余にわたり都市生活が営まれてきた歴史的市街地である。仏具、法衣等の宗教関連用品を扱う商店、しもた屋等の町家、中小寺院の表構え、大寺院の塙等により形成される町並み景観は地区に固有のものである。
エ 建築計画等に求める配慮事項	この特色ある景観を維持し又は整備すること、また多様な宗教関連用品を扱う店舗及び工房と多くの市民の居住空間の共存を図りながらの町づくりや建物づくりの知恵などを評価し、町並み景観づくりに生かすことを目標とする。

参考写真等



3-5 都名所図会「本願寺」安永9年(1780)



3-6 堀川通から北東への眺望



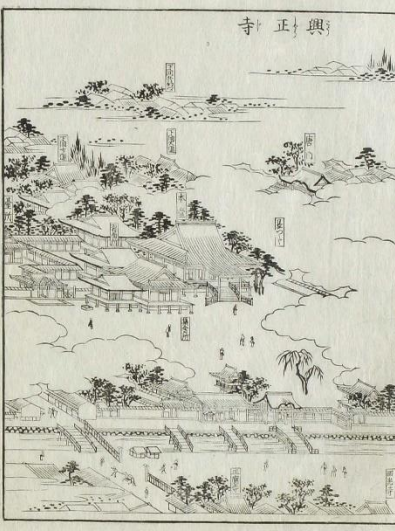
3-7 花屋町通東中筋から西への眺望



3-8 正面通沿いの法衣店や仏具店が並ぶ町並み

3 西本願寺南側			
ア エリアの歴史等	・七条堀川南西角の町名が「八百屋町」といい、天正期に蔬菜市場であったことに由来するという。東は青果、西は水産物の市場で両本願寺や客屋十二町への卸し、近隣住人への小売りを行っていたと考える。下魚棚通以北が西本願寺の寺内町で、現在は下魚棚四丁目、八百屋町、大工町などの町名が残っている（図3-9）。 ・明治10年(1877)に京都一神戸間の鉄道が開業し、大正元年(1912)京都市電七条線が開業し、地域の利便性は著しく上昇し、市街化が加速した。		
	イ 町並みの特徴		
ウ 景観形成方針	・西本願寺南側は北小路通を挟んで興正寺や龍谷大学大宮キャンパス等がある。興正寺の壮大な伽藍は、西本願寺と連続した歴史的景観を形成している。 ・七条通は銀行、マンション、住宅、商店等が並んでおり、富士ラビットや富田邸といった景観上重要な建築物が点在している。 ・岩上通、猪熊通、黒門通沿いは低層の住宅や商店等が並び、町家も多く残っている。 ・木津屋橋通の南側には梅小路公園があり、公園の北東側には京都水族館があるほか、西側には京都鉄道博物館があり、多くの市民や観光客で賑わっている。		
	文化財等：富士ラビット、龍谷大学本館、南龕、北龕旧守衛室、富田邸		
エ 建築計画等に求める配慮事項	歴史遺産型美観地区	旧市街地型美観地区	沿道型美観形成地区
	両本願寺の寺内町に宗教関連の地場産業の店舗及び参拝者の宿坊が軒を連ねる景観特性の継承を基本方針とする。	両本願寺の寺内町であり、宗教関連の店舗や和風旅館が軒を連ねる風情を継承することを景観形成の基本方針とする。	歴史的市街地内の美観地区等に隣接する沿道は、周囲の良好な景観を分断することがないよう、沿道の町並みの連続性と調和に配慮し、良好な景観を創出する。

参考写真等



3-9 都名所図会「興正寺」
安永9年(1780)



3-10 富士ラビット



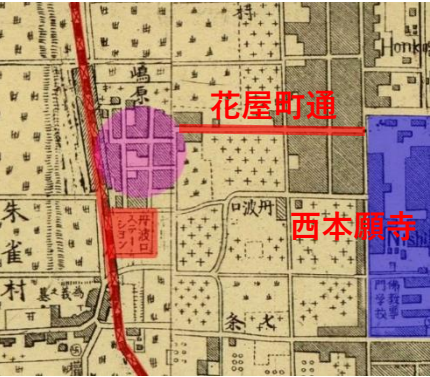
3-11 七条通大宮から東への眺望



3-12 堀川塩小路から西への眺望

4 西本願寺西側			
ア エリアの歴史等	・エリアの西側は、通称「島原」と呼ばれた地域と西本願寺にはさまれた地域で、花屋町通沿いのエリアの西端にあたる場所が、島原の東の出入り口にあたる大門である。 ・明治中期までは、ほとんどが田畑であったが、明治30年(1897)京都鉄道(現JR山陰本線)が京都駅に乗り入れ「丹波口駅」が開設すると畑地であった周辺地域に建物が建ちはじめ(図3-13)、大正初期には花屋町通の南北両側も市街化した。		
	イ 町並みの特徴		
ウ 景観形成方針	・エリアの西端に島原の東入り口で正門にあたる島原大門が残っている。 ・大宮通沿いは、中層のマンション、商業ビル等が並び、七条通り近くに龍谷大学付属平安中学・高校がある。 ・壬生川通周辺は住宅、マンション、飲食店等が並び、ゲストハウスも点在している。 ・正面通、花屋町通周辺は低層の住宅や商店が密集しており、町家や路地も多く残っている。		
	文化財等：島原大門、西澤邸、青木邸		
エ 建築計画等に求める配慮事項	歴史遺産型美観地区	旧市街地型美観地区	市街地型美観形成地区
	両本願寺の寺内町に宗教関連の地場産業の店舗及び参拝者の宿坊が軒を連ねる景観特性の継承を基本方針とする。	両本願寺の寺内町であり、宗教関連の店舗や和風旅館が軒を連ねる風情を継承することを、景観形成の基本方針とする。	当該地域内には、リサーチパークや中央卸売市場などの大規模公益施設を有するとともに、活気あふれる下町の風情を醸し出している。
エ 建築計画等に求める配慮事項	本願寺に面する建築物は、寺内町の風情を保全するよう誘導する。その他の敷地では、寺内町の雰囲気を受け継ぐ落ち着いた景観の保全を図る。	建築物は勾配屋根を設け、道路に面して空地を設ける場合は門や塀を設置するなど、京町家や社寺と調和した町並み景観の保全、創出を図る。	建築物等は、京町家等の歴史的町並みを残す地域においては、外観に和風意匠を取り入れるなど歴史的な町並み景観の形成を図り、その他の地域は屋上景観等の整備に努め、良好な市街地景観の創出を図る。

参考写真等



3-13 「實地測量京都市全圖」
明治35年(1902)



3-14 大宮通から南への眺望



3-15 壬生川正面から東への眺望



3-16 壬生川通から南への眺望

3-1 「都名所図会」より「本願寺」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
3-5 「都名所図会」より「本願寺」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
3-9 「都名所図会」より「興正寺」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
3-13 「實地測量京都市全圖」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)